

令和6年度学校評価 職員自己評価集計

流山市立長崎小学校

項目	No.	評価項目	5	4	3	2	1	合計	平均
学校運営	1	学校教育目標は適切で、具体的に図られているか。	18 43%	21 50%	3 7%	0 0%	0 0%	42 100%	4.4
	2	学校教育目標の具現化に向けて、教育実践に努めたか。	8 20%	26 65%	6 15%	0 0%	0 0%	40 100%	4.1
	3	教育活動の運営に、教職員の意見が反映されていたか。	7 18%	19 50%	12 32%	0 0%	0 0%	38 100%	3.9
	4	教育活動の運営に、管理職や主任のリーダーシップが発揮されていたか。	13 33%	20 50%	7 18%	0 0%	0 0%	40 100%	4.2
	5	公簿、表簿等は正しく処理されているか。	15 39%	20 53%	3 8%	0 0%	0 0%	38 100%	4.3
	6	個人情報の管理は、適切に行っているか。	20 45%	18 41%	6 14%	0 0%	0 0%	44 100%	4.3
	7	教育活動に必要な情報は、適切に教職員に周知されているか。	12 28%	25 58%	6 14%	0 0%	0 0%	43 100%	4.1
	8	校務分掌の分担が適正になされ、意欲的に取り組んだか。	7 19%	21 57%	8 22%	1 3%	0 0%	37 100%	3.9
組織	9	教職員の相互理解がなされ、教育活動に協力し合って取り組んだか。	10 22%	27 60%	8 18%	0 0%	0 0%	45 100%	4.0
	10	日々の教育活動における問題や悩みを、気軽に話し合えたか。	15 33%	20 44%	10 22%	0 0%	0 0%	45 100%	4.1
	11	個別最適な学び、協働的な学びを実現するための実践を行ったか。	7 18%	23 61%	8 21%	0 0%	0 0%	38 100%	4.0
	12	児童自らが、学習の見通しをもち、主体的に取り組める授業を行ったか。	3 9%	22 69%	7 22%	0 0%	0 0%	32 100%	3.9
	13	全教育活動を通して、道徳的心情を養うことができたか。	4 11%	22 63%	9 26%	0 0%	0 0%	35 100%	3.9
	14	体力の向上を考え、体育の授業をはじめ体育的活動を充実することができたか。	5 17%	18 60%	6 20%	1 3%	0 0%	30 100%	3.9
	15	タブレットや視聴覚機器を活用した授業を、積極的に展開できたか。	7 22%	16 50%	9 28%	0 0%	0 0%	32 100%	3.9
	16	読書活動の充実が図れたか。	5 17%	12 40%	10 33%	3 10%	0 0%	30 100%	3.6
生徒指導・特別支援	17	基本的な生活習慣（言葉遣い、廊下歩行等）が身につけられるよう適切に指導することができたか。	3 7%	29 71%	8 20%	1 2%	0 0%	41 100%	3.8
	18	子ども達が自主的に挨拶ができるよう、継続的な指導を行ってきたか。	4 10%	24 59%	11 27%	2 5%	0 0%	41 100%	3.7
	19	子ども達の話に耳を傾け、寄り添い、充実した教育相談を行うことができたか。	7 17%	26 63%	7 17%	1 2%	0 0%	41 100%	4.0
	20	児童相互の好ましい人間関係が育つよう、児童間の関係づくりに努めたか。	8 20%	23 58%	8 20%	1 3%	0 0%	40 100%	4.0
	21	特別な支援配慮を必要とする児童への支援の手立てを考えて指導に当たったか。	7 18%	26 68%	4 11%	1 3%	0 0%	38 100%	4.0
	22	校内研究組織が機能して、計画的に研修が実施されたか。	7 22%	21 66%	4 13%	0 0%	0 0%	32 100%	4.1
	23	校内や校外における研修で得たものが、自分の教育実践に活かされたか。	5 15%	26 76%	3 9%	0 0%	0 0%	34 100%	4.1
特別活動	24	学校行事の内容、時期等は適切であったか。	7 18%	25 63%	8 20%	0 0%	0 0%	40 100%	4.0
	25	学級活動は、年間計画に基づいて実施できたか。	5 16%	22 71%	3 10%	1 3%	0 0%	31 100%	4.0
	26	児童会活動は、計画的かつ機能的に運営されたか。	7 22%	18 56%	7 22%	0 0%	0 0%	32 100%	4.0
	27	クラブ活動や委員会活動は、児童の自主的、自発的な活動となるよう指導ができたか。	7 23%	19 61%	5 16%	0 0%	0 0%	31 100%	4.1
	28	学級の環境（掲示・整理整頓）が適切で、清掃活動は行き届いていたか。	9 23%	19 48%	10 25%	2 5%	0 0%	40 100%	3.9
保健・安全	29	児童の安全確保のための、手立ては適切に取られてきたか。	8 19%	28 65%	7 16%	0 0%	0 0%	43 100%	4.0
	30	健康面に配慮を要する児童に対して、適切に対処できたか。	7 18%	27 68%	6 15%	0 0%	0 0%	40 100%	4.0
	31	授業参観・懇談会では、経営方針や学級の様子を適切に伝え、信頼を深めることができたか。	4 13%	18 60%	8 27%	0 0%	0 0%	30 100%	3.9
保護者地域	32	学校で起きた出来事について速やかに伝え、よりよい対応に努めることができたか。	6 19%	22 69%	4 13%	0 0%	0 0%	32 100%	4.1
	33	地域の人材活用を図ることができたか。	6 20%	12 40%	10 33%	1 3%	1 3%	30 100%	3.7
	34	いかなる不祥事も起こさぬよう、日々注意を払ってきたか。	21 46%	21 46%	4 9%	0 0%	0 0%	46 100%	4.4
不祥事	35	不祥事根絶に向けた研修を適切に受けられたか。	18 42%	19 44%	6 14%	0 0%	0 0%	43 100%	4.3
	36	各教科の備品や教材教具が適正に配備され、活用されていたか。	8 22%	20 56%	6 17%	1 3%	1 3%	36 100%	3.9
その他	37	部活動は、協力して効果的に取り組めたか。	7 26%	12 44%	7 26%	1 4%	0 0%	27 100%	3.9

【考察】

アンケート結果については、それぞれの回答への割合の他、とてもそう思う（５）、そう思う（４）、ふつう（３）、あまりそう思わない（２）、そう思わない（１）と数値化し、平均値する方法をとっています。

（１）～（４）は、学校経営について、（５）～（１０）は、組織についての設問です。

肯定群の回答が半数以上を占め、平均値でみても４以上となっており、組織として教職員が相互理解をしながら日々の教育活動にあたっていることが読み取れます。特に、学校教育目標の設定とその実現に向けた努力が全体として評価されました。具体的には、今年度より学校教育目標を「主体的に生きる子」と明確にしたことで、教職員間で共通のビジョンを持つことが可能になり、教育活動が方向性を持って進められたと考えられます。今後も本校の学校教育目標である「主体的に生きる子」を常に念頭に置き、その具現化に向け、組織として教育活動に取り組んでまいります。

「公簿・表簿等の処理」「個人情報の管理」については、昨年度同様「とてもそう思う」の割合が他の項目よりも高いです。多くの情報を扱う学校現場において、個人情報をはじめとする多くの情報を適切に取扱う必要性について教職員が理解し誠実に職務にあたっていることが読み取れます。また、校務分掌およびチーム運営に関する評価では、校務分掌の適正な分担と意欲的な取り組みが引き続き高い評価となり、教職員間の協力関係が順調に構築され、意見の反映度も向上していることが窺えます。

（１１）～（１６）は、学習指導についての設問です。

学習指導の分野では、ＩＣＴ機器（タブレットや視聴覚機器）を活用した授業の展開が高く評価され、個別最適な学びや協働的な学びの促進が着実に進んでいることが読み取れます。これは昨年度の評価よりも向上しており、学校全体での取り組みが成果を上げていることを示しています。今後もタブレット端末の活用の幅をより広げたり、日々の授業を改善したりしながら、どの児童も主体的に授業に参加し、学習を進めることができる授業づくりに努めていきます。

道徳的心情の育成については、全教育活動を通じて児童にその重要性を伝える取り組みが行われ、昨年度と比較し、一定の成果が確認されました。授業や学校行事、学校生活全般を通じて児童同士が互いに思いやりを持ち、他者を尊重する姿勢が育まれていることが要因と思われます。今後も、様々な活動が子供たちの人格形成につながっていることを念頭におき、道徳教育を特定の授業だけでなく、日々の教育活動全般に統合し、児童が日常生活の中で道徳的心情を実践できるよう指導していきます。

「読書活動」については、児童の意欲を高めるための取組が進められているものの、さらなる充実が求められます。昨年度と同水準の評価ですが、引き続き、学校図書館の利用促進や児童の読書量を増やすための工夫を行い、本に親しむ機会を増やし、読書習慣につなげていけるよう努めます。

（１７）～（２１）は、生徒指導・特別支援についての設問です。

「児童間の関係づくり」「子供によりそった充実した教育相談」の項目については、約８

割の職員が肯定的な回答をしています。また、特別支援に関する取組についても同様に8割以上の職員が肯定的な回答をしており、児童一人ひとりの状況に応じた対応が評価されています。特に、特別な支援を要する児童への計画的な取組が進み、学校全体での理解が深まっていることが窺えます。これからもより一層児童理解に努め、一人一人の困り感や状況に寄り添った指導、児童一人一人のよさを見取り、認め、励まし、児童の自己肯定感が高まるような接し方をこれからも心掛けていきます。

逆に、基本的な生活習慣については、平均と比較しやや低い評価となっています。基本的な生活習慣は一朝一夕で身に付くものでなく、長期にわたり継続して指導する必要や家庭の協力が必要になってきます。今後ご家庭や地域のご協力を得ながら、基本的な生活習慣を身に付けることの大切さを粘り強く指導していきます。

(22)(23)は研究・研修についてです。

本校では、研究主題を「主体性を育てる個別最適な学び・協働的な学びの在り方」と設定し、今年度から個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るため、従来の一斉授業の在り方を見直し、学習の主体者である児童が選択できる要素を多くした「単元内自由進度学習」と「探究型習」に、各学年で選択した教科、一部の単元で取り組んできました。今後も、校内研究の中で得たものや校内外の研修で得たものを教育実践に具体的に結びつけ、日々の教育活動に活かすことができるよう努めていきます。

(24)～(27)は特別活動についての設問です。

これらの設問についても、肯定群の回答が半数以上を占め、平均値でみても、概ね4程度となっています。学級活動や学校行事が計画に基づいて適切に実施されていることが読み取れます。体育まつりや長小まつりをはじめ、様々な行事や活動が児童主体の形で行われており、児童の自主性を引き出す努力が見られました。今後も、様々な活動が、児童の成長につながるような自主的・自発的な活動になるようにしていきたいと思います。

(28)～(30)は保健・安全についての設問です。

昨年度と比較し、評価が上がっていることから、教職員が児童の健康・安全に対する意識を高め、適切に対応していることが読み取れます。学校では、児童の健康・安全に配慮しながら児童に接するとともに、環境美化・環境整備に努めています。また、毎月1回、安全点検を行い、児童の安全な学校生活に向け危険な箇所を速やかに修繕するようにしています。今後も危険な場所や老朽化が目立つ場所を修繕しつつ環境整備・環境美化に努めるとともに、児童自らも自分たちが使っている学校をきれいにしようと思える心を育てていきたいと思います。

(31)～(33)は保護者・地域についての設問です。

9割近くの職員が「学校で起きた出来事について速やかに伝え、よりよい対応に努める」の項目に肯定的な評価をしています。しかしながら、保護者アンケートの同様の設問では、肯定的な回答が6割程度と、職員と保護者の回答割合に乖離がみられます。児童の成長には学校と家庭が両輪となって連携することが必要であるという考え方のもと、教職員は学

校で起きた出来事について速やかに伝え、よりよい対応に努めるよう心掛けています。また、学級担任との日常的な連絡に加え、保護者の皆様からの相談については、教育相談担当職員による相談、スクールカウンセラーによる相談の機会を設け、様々なニーズに対応してきました。今後も、児童・保護者の皆様のニーズに応えられるよう、対応を充実させるべく努力していききたいと思います。

「地域の人材活用」については、昨年度より評価が上がったものの、平均と比較し低評価となっています。今年度も多くの地域の方々や保護者の方々にボランティアとなっただき、教育活動を支援していただきました。今後も、様々な教育活動において、引き続き保護者や地域の方々のお力をお借りしながら、地域資源を活用し、教育活動を進めていきたいと思っています。

（３４）（３５）は不祥事についての設問です。

約半数の職員が「とてもそう思う」と回答し、９割以上の職員が肯定的な回答をしています。我々教職員は、教育公務員として不祥事は絶対に起こさないという考えのもと、日々の教育活動にあたってきました。今後も、全教職員が「とてもそう思う」という回答をする姿に近づけるよう、全職員が危機管理意識をもち、不祥事根絶を常に念頭に置き、不祥事に繋がる行動をとらぬよう心掛けながら日々の教育活動にあたっていきたいと思っています。